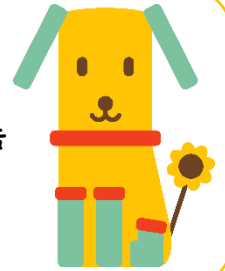


Contents

- 第4回ワークショップ開催のご案内
- 第5回シンポジウム開催のご案内
- ウェビナー (LoFR Webinar) のご報告
- 研究所 TOPICS
- 編集後記



■ 第4回ワークショップ「図書館員の未来準備」開催のご案内

新型コロナウイルスの影響下で、多くの図書館が休館やサービスの縮小を余儀なくされ、図書館はどのようにしてその役割を果たしていくか、世界中で議論されています。今回はこれからの「図書館の役割」を改めて考える機会として、特に地域の人びとを支える「図書館と地域コミュニティ」について、テーマの更新をし、新たな講師の方に加わっていただきました。

Web 会議システム「Zoom」を使用し、PCでの演習など含む、オンライン開催のワークショップとなります。距離に関係なく参加可能で、受講者の皆様の積極的な参加を想定した運営をする所存です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

Schedule

領域①「図書館情報システム」

- ・10月 5日(月) 10:00~12:00 『図書館サービスの未来準備』/ 宇陀 則彦氏 (筑波大学教授)
- ・10月 19日(月) 13:00~17:00 『Web を活用した図書館サービス』/ 川嶋 斉氏 (Code4Lib JAPAN)

領域②「図書館の役割 1」: テーマ『図書館と地域コミュニティ』

- ・10月 5日(月) 13:00~15:00 井上 康志氏 (都城市立図書館 館長)
- ・10月 12日(月) 10:00~12:00 豊山 希巳江氏 (山武市成東図書館)

領域③「図書館の役割 2」: テーマ『図書館と学び』

- ・10月 12日(月) 13:00~15:00 庭井 史絵氏 (青山学院大学准教授)
- ・10月 16日(金) 10:00~12:00 渡辺 ゆうか氏 (国際 STEM 学習協会 / ファブラボ鎌倉代表)

※ 全科目受講のほか、領域ごとの受講も可能です。

■ 受講料 全科目: 12,000 円, 領域①: 6,000 円,  
領域②: 4,000 円, 領域③: 4,000 円 (全て税込)

■ 対象 図書館勤務経験者

■ 定員 各回 10 名程度

■ お申込み・詳細については、当研究所 Web サイトをご覧ください。

(<http://www.miraitosyokan.jp/wp/20200818/>)



オンライン付箋サービスなど、さまざまな手法を活用し、  
オンライン形式でのワークショップの運営に挑戦します!

■ 第5回シンポジウム「図書館とレジリエンス」開催のご案内

11月27日(金)には、シンポジウムの開催を予定しております。今年度のテーマは「図書館とレジリエンス」です。講演者・パネリストとして、名取市図書館館長 柴崎悦子氏、鳥取県立図書館 三田祐子氏をお招きし、それぞれの図書館の取組についてご講演いただき、「図書館活動を通じて、立ち直る力のあるコミュニティをどのように育むか」について考えていきたいと思っております。本シンポジウムについても、オンライン形式(ライブ配信)での開催を予定しております。詳細が決定いたしましたら、当研究所 Web サイトにてご案内いたします。(登録無料)

## ウェビナー「図書館の未来を拓くスキル」開催報告

6月～7月に全3回で開催しました、ウェビナー「図書館の未来を拓くスキル～ヒト・モノ・コトをむすぶ場づくり」では、北海道から九州まで、全国各地からご参加いただき、オンラインならではの手応えでした。最終回は、講師の太田剛氏（図書館と地域をむすぶ協議会）は、椎葉村図書館「ぶん文 Bun」からご参加いただき、椎葉村図書館のクリエイティブ司書の小宮山氏にも登場していただくなど、時と場所を超えた多彩な内容が実現しました。途中、接続が途絶えるなどのアクシデントもありましたが、アクシデントの間には参加者どうしでの意見交換や交流の機会をもつことができました。この実践を、次回以降の運営に活かしていきたいと思えます。

次のような参加者の声をいただいています。「竹のようなしなやかさで図書館がコミュニティを生み出す場として力を発揮するのも、ネットコミュニケーションをどれだけ取り入れることができるかということかなと思った」、「参加者の交流、対話、意見、主張する機会が足りなかった」、「考えていたよりも気軽に発言できた」など。

## 研究所 TOPICS

### ■「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」にて、動向レポート増刊号が紹介されました。

日本図書館協会による「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」（令和2年5月26日更新版）にて、「海外の図書館協会等で作成されたガイドラインの概要を知ることができる」として、当研究所発行の動向レポート増刊号「新型コロナウイルス影響下の図書館：再開に向けた取組」が紹介されました。（<https://www.jla.or.jp/Portals/0/data/content/information/corona0526.pdf>）

### ■当研究所キャラクター未図犬「MITO」がkumoriさんのWebサイトに掲載されました。

MITOをデザインしていただいたkumoriさんのWebサイトのプロフィールページにて、「作成したロゴ・キャラクター」のなかに、MITOが仲間入りしました。編集後記の連載が実を結びました！（<http://kumori.info/profile.html>）



## 編集後記

はじめに、新型コロナウイルスの影響を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて、第5回シンポジウムのテーマである「レジリエンス」とは、「折れにくさ、打たれ強い」など心理学的な意味合いでよく用いられますが、もともとは復元力とか回復力といった物理学や生態学で使われてきた言葉です。前号でとりあげた「サステナビリティ（持続可能性）」と「レジリエンス（回復力）」は、時として同列に扱われることもありますが、復元力があれば持続可能であるともいえませんが、持続可能であるからといって復元力があるとは限りません。サステナビリティをバックアップするような概念として、私どもはレジリエンスに注目してきました。昨今は、新型コロナウイルス禍により、世界の不確実性が高まるなかで、どのように状況に適応し、安定的な状況を保つかといった必要性から、レジリエンスが求められる時代になっているように思います。サステナビリティに続くものとしてレジリエンスを設定しましたが、奇しくもご時世に合致したものとなりました。今回は全ての主催イベントがオンライン形式になりましたが、新しい試みの機会として、私どもも楽しみにしております。

それでは、前号に引き続きMITOについてご紹介させていただきます。右の鈴のような形は、なんだと思いますか？実は、これもMITOなのです。MITOは犬型だけでなく、球体に変形するロボットなのです。球体は犬型に比べて壊れにくい、つまりレジリエンスなロボットでもあります。MITOには、まだまだ隠されたコンセプトがあるのですが、懲りずにまた次回に続きます。

改めまして、第3号もお付き合いいただきありがとうございます。皆様の安全と健康をお祈り申し上げます。（木村 瞳）



## 発行

編集・発行：株式会社 未来の図書館 研究所

〒113-0033 東京都文京区本郷5-23-12 鳩山ビル7階

✉ info@miraitosyokan.jp ☎ 03-6673-7287 FAX 03-6772-4395

URL: <http://www.miraitosyokan.jp>  <http://www.facebook.com/miraitosyokan/>

図書館づくりのご相談、原稿執筆、講師依頼等、その他お気軽にご連絡ください。

これまでの実績について、「当研究所員が携わった仕事（2020.3現在）のご紹介」をWebサイトに掲載しています。

